

3.28にむけて

3ヵ月間総決起体制を確認

青年部が 団結旗開き



82.1.13
No. 941

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五ノ六(会衆) 電話三三二七二〇七

一月十一日、幕張電車区講習室において、一九八二年青年部旗開き団結集会在、各支部80名の結集をもって開催された。青年部は、この日の団結集会の成功をもって、激動を深める八二年の闘いの第一歩を踏み出した。

集会は、新藤常任委員と幕張支部副青年部長である伊藤君の司会によって開会された。主催者を代表しての長田副青年部長のあいさつの後、来賓の関川委員長からは、「十年先、二十年先を見ずえて、労働運動の真の姿をつくりだそう。それが81・3の闘いであり動労千葉のかかげた課題だ。その先頭に立つのが青年部だ」との励ましのあいさつ、又、白井幕張支部長は、検修合理化反対闘争の最大の拠点として、最先頭で闘いぬく決意、東京実行委員会を代表して杉並区議でもある長谷川さんからは、「東京実行委員会は、三里塚二期決戦の勝利にすべてをかけて八〇年代に全労働者人民を代表し、リードできるような大衆運動団体に飛躍していく。」と、3・28三里塚への全力決起が呼びかけられ、それぞれの発言に対し、圧倒的な拍手がおくられた。又、部落解放同盟千葉県連からはメッセージがよせられた。

田中青年部長が四つの課題を提起

田中青年部長より提起された基調報告は、ヨーロッパ全土で二〇〇万といわれている反核をかかげた労働者人民の総決起、戒厳令をついて決起するポーランド人民の闘いなど、世界の動きにふれながら、歴史の流れ、「世界の階級闘争の流れは明らかに転換した。ふたたび労働者人民と支配階級が激突をはじめている中で、われわれは八二年をむかえている。このことは、三里塚を労働運動の課題に真向からすえ、『本部』革マルとの対決をもって闘い抜いてきた三年間の動労千葉の闘い、つくりあげてきた路線が、いよいよ全国の労働者の心をとらえて全国に拡大される時が到来したということだ。」「三里塚二期、三五万人体制攻撃右翼労働『統一』攻撃、『本部』革マルによる動労千葉破壊策動、春闘・・・など、全ゆる課題が三月を焦点に煮詰まっている。3・6労働者大集会3・28三里塚現地闘争のもつ意味はかつてなく大きい。三ヶ月間の総決起体制を」と訴え、四つの課題を提起した。それは、第一に、三里塚労働連帯、二期絶対阻止！十六年間の大義を絶対に圧殺してはならない！第二に、当面検修合理化を焦点とした三五万人体制、新マル生攻撃と全力で対決すること。第三に、右翼労働『統一』粉碎。第四に、動労革マル追放一掃、動労大改革、とりわけ三月に策動されている動労千葉破壊オルグを断固粉碎すること。である。

北原(反対同盟事務局長)、吉岡(津田沼支部書記長)が特別報告

次に特別報告に入り、三里塚反対同盟事務局長北原鉞治氏、津田沼支部書記長・吉岡一氏から、それぞれ「二期決戦勝利へ向けた闘いの決意」、「新マル生労働監査攻撃と闘う津田沼」と題して、報告がおこなわれた。

反対同盟北原事務局長は、「すでに二期強行攻撃は開始されている。服部経治という運輸省の二期工事最高責任者までが現地に足をふみ入れ、反対同盟解体を狙っている」と緊迫した現地の情勢を報告し、「反対同盟は十六年間の根本精神である『空港絶対反対、一切の話し合い拒否』の決意もあらたに、日本農民のため、たまたか労働者人民のため勝利する。日本の未来と反戦平和のため勝利する」と、不動の決意を述べ、三月へむけた闘いの決定的重要性が圧倒的な拍手のなかで確認された。

吉岡津田沼支部書記長は、三五万人体制Ⅱ「経営改善計画」発表以降の、国鉄労働運動に対する攻撃の全面的な激化が意味する本質を提起し、又「特定職場」指定の下で、昨年十二月、労働監査攻撃を受け、「悪慣行」「突発休」「現協」「ピ